

平成30年度 大正東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
		国語A	国語B	数学A	数学B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
3年	学校	173	73	57	61	43	61	4.0	3.9	5.1	15.4
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6
											5.0

平成30年度 大正東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

今年度も、全テストで大阪市の平均正答率に届かなかった。無回答率も、全テストで、上回っている。しかし、今年度は昨年度の結果より平均正答率、無回答率とも大阪市全体の結果に近づいた。昨年度は、理科は実施されていないので、国語A, B、数学A, Bの正答率と無回答率の平均を取ると、正答率は大阪市平均との差がH29が2.8でH30は1.3になり、無回答率は大阪市平均との差がH29が1.7でH30は0.5となり大阪市の平均に近づいている。

一昨年より、本格的にICT機器を活用した授業実践と習熟度別少人数授業の効果が出てきたことが考えられるが、生徒質問の昨年と今年の結果を比較すると、規範意識やいじめを否定する意思などで10ポイント程度向上していることが分かる。これが学力にも影響していると考えられる。

しかしながら、家庭学習に関する質問では、学習時間は市平均より長いにもかかわらず、自主的に取り組んでいるかや予習復習をしているかなど家での学習については大阪市より低いポイントになっている。

また、数学や理科嫌いの生徒も大阪市よりも10ポイント以上多くなっている。

【今後に向けて】

ICT教育や習熟度別授業は、学力向上に高い効果があることが分かっているので、今後もより一層工夫をして取り組んでいく。

生徒質問の中に主体的、対話的で深い学びについての質問があるが、すべて大阪市平均より10ポイント以上低くなっている。課題に対して、自ら解決しようと取り組み、考えをまとめ、発表する。そして、仲間と話し合うことで、自分の考えをより深めたり広げることが、学力向上のための最善策であるとされているが本校では十分できていないことがうかがわれる。

今後は、主体的、対話的で深い学びについては研修を積み、教科だけではなくあらゆる教育活動に取り入れていく。

学力向上には、規範意識や自尊感情の育成が不可欠であるので、生活指導部と人権教育担当者が連携して様々な取り組みを実施するとともに、日々の教育活動の中での生徒のシグナルを見逃さず適宜指導できる体制を作る。

生徒の規範意識や自尊感情の育成は、家庭の協力なくては実現できない。また、家庭学習の改善にも必要であるので、懇談会や保護者集会での啓発のほか、ホームページを活用して保護者の協力を得れるように取り組んでいく。